えな自慢 3 えな景

恵那峡（えなきょう）　市を代表する観光名所

遊覧船が走る緑豊かな恵那峡

ひと口メモ
恵那峡へは、北原白秋、若山牧水など多くの文人が訪れている。特に白秋は、何度も恵那に足を運び、1934（昭和９）年来遊の折には、恵那峡とんとん節や大井栄舞を作詞した。さざなみ公園の先端には、歌碑も残されている。

「電力王」福沢桃介によって木曽川の急流を、せき止めて造り上げられた大井ダムによってできた人造湖。

大井ダムから、上流約10キロの区域を指し、1920（大正９）年に、地理学者の志賀重昂（しげたか）によって、恵那峡と命名された。両岸には、屏風（びょうぶ）岩、軍艦岩、品の字岩、獅子（ししし）岩などの奇岩・怪石が立ち並び、それらを遊覧船から眺めることもできる景勝地。

また、春にはサクラをはじめ、ツツジやフジの花も美しく咲く。夏には濃緑に赤い恵那峡大橋が映え、秋には、モミジ、カエデなどが湖面を彩る。冬にはオシドリやムクドリなどが飛来し、バードウオッチングもできるなど、季節ごとにさまざまな景色が楽しめる。市内に２カ所ある県立自然公園の一つ。

えな自慢 4 えな業

バイオリン生産量日本一のまち

バイオリンの生産風景

ひと口メモ
バイオリン工場と中野方町民との触れ合いの物語は、「バイオリンの村」（1979年・赤座憲久作・鈴木義治画）という創作童話として小峰書店から出版されている。

中野方町の恵那楽器㈱は、バイオリンの生産量が日本一。日本人で最初の世界的なバイオリン製作者であり、鈴木バイオリン製造㈱の創始者である鈴木政吉の２代目、鈴木梅吉が強制疎開で中野方町まで来たことに始まる。

そして戦後は、恵那工場（中野方町）でバイオリン、ギターの製造を再開。1946（昭和21）年、現在の名古屋市中川区に本社を移転、1954（昭和29）年、恵那工場を㈲恵那楽器と改め、系列工場とした。

現在、恵那楽器㈱では鈴木バイオリンのスタンダード製品の75パーセントを製造。バイオリン、マンドリン、コントラバス、チェロを従業員全員がそれぞれの技術で製造している。また自社ブランド・サウンドエナとして、オリジナル製品の製造販売も手掛けている。

次号は７月15日号
発行日は７月15日㈬です

広報えな No.108
2009年（平成21年）
７月１日発行

発行　恵那市役所／編集　企画課広報広聴係
岐阜県恵那市長島町正家一丁目１番地１ TEL26-2111／FAX25-6150
http://www.city.ena.lg.jp/　✉info@city.ena.lg.jp

『広報えな』７月１日号、１部当たりの印刷経費は約11.3円（税込み）です。

恵那市安心安全メール配信システム
登録用ＱＲコード
□問い合わせ　防災対策課（内線317）

『広報えな』は環境に優しい再生紙を使用しています。
PRINTED WITH SOY INK
この印刷物は石油系インキではなく、地球に優しい大豆油を使用したインキで印刷されています。